

●はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大により1月⇒2月⇒3月⇒4月⇒5月⇒と日を追って感染者、死亡者が増加し、医療崩壊一步手前まで切迫しています。息の長いウィルスで一日でも早くワクチンの開発が待たれます。

コーダイは修了式、成果発表会、修学旅行まで中止し残念な結果となりました。

入学式まで取り止めとし、始業日も9月1日にしました。

今後、世の中の情勢を鑑み、授業及びイベントを中止する場合があります。

OKALS-Vを今年は着手し普及を始める年です。超高齢社会の中にあってコーダイの果たす役割は益々大きくなっています。学習する、仲間づくり、健康づくり、さらに、社会への参加を行動指針とし、借財1,100兆円の日本に少しでもお返ししたいと考えています。サテライト構想は5カ年計画を作成し推進します。大阪北部、大阪東部、大阪南部を視野に入れた戦略を展開します。

●基調方針

1. コーダイは12期を迎えます。5年計画の最終年です。人・もの・金をいかに活用し、有効化していくか？超高齢化社会の中でコーダイの果たすべき使命を認識し、対処していきます。
2. OKALS-V運動を軌道に乗せたいと考えています。HP、Facebook、れいんぼー、マガジン、マスコミを活用してコーダイ学習方式を普及させ浸透を図ります。コーダイ内ではなにわの宮会を通して徹底していきます。
3. KOU DAI NETWORK SYSTEM（コーダイ ネットワーク システム）プロジェクトを立ち上げます。凄まじい勢いで情報管理・発信が進行中です。コーダイ内外においてインフォメーションが迅速・正確に流れるようにし、ネットを駆使した研修会・会議ができるように体制を整備していきます。5年計画を作成しOKALS-V運動の普及にも役立てたいと考えています。
4. 組織の改編と人事異動を実施しました。事業部、BSC、事業開発(Sプロの一部)を一本化して事業部にしました。子ども事業部を新設し、バラバラであった子ども事業関係の統合、指導を促します。先駆的カリキュラムの開発を推進するため、総合企画部門は総勢14名で再スタートします。各人が各ジャンルのエキスパートになれるよう努めて頂きたい。サポーターを導入し、体制の充実を図ります。
5. 広報・ファンド部門ではファンドレイジングにさらに力を入れていきます。CDは全員正会員となりました。受講生には半数が賛助会員になるよう促します。企業の寄付金促進に努力します。パブリシティ活動は軌道に乗りつつあります。
6. 教育部門は受講生との接触を深め情報を迅速に把握し、対策を推進して頂きたい。

委員長会議は良かったと思います。教務委員会、CD 会議は報告でなく対策会議に改善の余地があります。

7. 事業部門は 3 部門となりレポーターが広くなりました。音楽会、東日本復興支援、養父市との連携、AED、うんちく講座、四天王寺探訪、ボラバス、DDS、KOUDAI AWARD、修了後の活動の場、SA 認定証関係、事業開発と多岐に亘っています。部門内のチーム力を活かし、事業部本来の業務を推進できるようお願いします。
8. 子ども事業部は長年の懸案事項であった一本化に踏み切りました。コーダイグループでバラバラにやっていたのを統合しました。夏の最大イベント「子どものための科学フェスティバル」を頂点に「法円坂子ども科学プラザ」「伝統文化親子教室」「長居公園応援」「お絵書き教室」また、SA 連協・カレッジへの協力・指導を実施します。
9. 情報管理部門は HP の改善・充実に努めます。動画の活用が重要です。また、KOUDAI NETWORK SYSTEM（コーダイ ネットワーク システム）の構築に向けて、コーダイグループを牽引して頂きたい。
10. 校友会の拡充は必須課題です。コーダイで積極的に応援し減少に歯止めをかける必要があります。校友会フェスタを毎年実施し、受講生への関心アップを図ります。「修了後の活動の場」は改善しながら継続します。
11. 姉妹校のカレッジは来年 17 校・665 名の受講生の見通しとなりテイクオフしつつあります。今まで若干の応援をしてきましたが今期より一人立ちで運営します。今後ともお互いが補完し合いながら進めていきます。
12. 関西シニア大学校との交流は継続実施します。首都圏との交流も然りです。OKALS-V 運動を進めるにあたって全国的な広がりになっていきます。また、諸外国に対しても交流を推進します。
13. 募集委員会では新型コロナの影響で検討すべき事項が明確になりました。3 密対策です。広い教室、2 人掛け➡費用は？募集時期は？慎重なる検討を要します。
14. なにわの宮会は第 3 期に入ります。2 年周期で実施してきました。新メンバーで対処します。OKALS-V の説明会も軌道に乗ってきました。35 クラス/期のペースで進めます。新人歓迎会を実施します。
15. 総務部では盗難事故を反省し保安対策を実施します。また、組織の簡素化、人材発掘に努めます。

●教育部門

受講生 2,874 名（被災受講生 1 名を含む）で講座をスタートいたします。67 科目で昨年と同じ科目数となりますが、教室設置場所が 2 ケ所増えて合計 6 ケ所となります。教室の運営については CD の皆様と教務部が、今まで以上にコミュニケーションを密にして、現場に根差した活動を実践していきます。

教務委員会は教務主任を各曜日から 2 名、計 10 名選出してその役割を明確にした上で、再徹底すると共に内容の改善を進めます。

また、曜日 CD 会議を通して CD との意思疎通を図り、迅速な対応で信頼を得ると共に充実・強化して運営します。

曜日教務部長は各教室へ積極的に出向き、現場・現物・スピード主義に徹し、受講生 CD、講師の生の声をタイムリーに吸い上げ、PDCA サイクルを的確に回していきます。

1. 教育会館、福社会館、住之江公園及び本年度から新たに加わった大阪教育大学・天王寺キャンパス、堂島ビルディングの各教室担当を決めて巡回し、きめ細かにフォローしていきます。
2. 即断即決、ディリー/ウイークリー/マンスリーで課題解決を実施します。
3. CD およびスタッフとなりうる人材の発掘・育成は年間を通じ教育部門独自、総合企画部門と連携し継続的に進めていきます。更に、昨年から始めましたクラス委員長会議を通して、人材発掘を進めていきます。また、CD の OB 名簿を充実させて継続して、人材を発掘出来るようにします。
4. クラスミーティングの内容・進め方を見直すと共に、良い事例の水平展開を図っていきます。また、コーダイカフェにつきましては、昨年度に白熱教室から名称を変えました。本年度は内容の改善・充実を進めていきます。
5. 学習事業推進部はスポーツ交流大会を昨年コーダイジョイフルゲームズに、高大祭をコーダイフェスタに昨年名称を改めました。主要行事には教育部門のメンバーが顧問となりまた、従来からのアドバイザー制度も継続して運営していきます。更に、CD・クラス委員長（クラス代表者）及び行事ごとの運営委員が連携して推進できるネットワークを年度早々に構築し、迅速かつ効率的に運営していきます。
6. 校友会とコーダイは車の両輪との認識を強く持ち、コーダイ行事はもとより校友会との共催行事及び DDS(同期同窓会)の運営などを通じ更に、連携を強化します。

<教務部>

1. 本科科目は昨年と同様の 52 科目です。
講座の午前は講義の充実、午後はクラスミーティングの運営を見直し、講義の振り返り学習を始め、本音の議論ができるよう楽しい雰囲気づくりを目指し、年間を通じて良い仲間づくりを強力に展開していきます。校外学習の中でも社会への参加活動については、少しでも多くの活動事例を水平展開し授業を運営します。
2. コーダイカフェは名称変更につき、内容の改善・充実を進めていきます。一部で見られる発表会スタイルから討論スタイルへ進化させていきます。
①発信力②信頼力③創造力の 3 力が学習できる、身につくような授業スタイルにしていきます。
3. 講師交流会は全科目の講師が出席頂けるように、実施方法を抜本的に見直し、年に 1 回開催します。
4. 修了式は昨年、新型コロナウイルスの感染防止の徹底で中止しましたが、本年は各クラス毎に工夫した出席率の高いオリジナルな手作り修了式を開催します。
5. コーダイスタッフと受講生の直接的な接点の一つとしては、曜日クラス委員長会議を年間 7 回ぐらい開催し、お互いの情報交換の場とし、クラス運営が円滑に推進でき

るよう進めます。

6. 昨年度に続き「曜日別合同オリエンテーション」を実施します。コーダイの現状とこれからの進むべき未来について、受講生に直接説明し理解と徹底を図ります。

<SA・実践研究部>

講座 15 科目（シルバーアドバイザーSA 養成講座 3 科を含む）間で、社会への参加活動に対して、実際の活動事例及び企画等を紹介する交流を行い、水平展開を図っていきます。「学習としての社会への参加活動」の認識を深め、在校中・修了後の地域での社会への参加活動へのきっかけ作りを目指して、実践活動を行います。

社会への参加活動の実践を継続的に発展させるため、BSC 部門を始めとして大阪区民カレッジ・大阪府民カレッジ・校友会・同窓会・その他コーダイ関連団体及び地域社会との情報交換や活動の交流を強化します。

<学習事業推進部>

1. コーダイの理念・方針に沿い、受講生のニーズを取り入れて「学習する」「仲間づくり」「健康づくり」の3本柱を基本に置いて受講生が楽しめる遠足、コーダイジョイフルゲームズ、コーダイフェスタ、修学旅行等を念頭に学習事業を推進していきます。
2. コーダイジョイフルゲームズ及びコーダイフェスタを最重点に捉え、推進責任者として、教育部門のメンバーが専任体制で運営します。アドバイザー制度は継続し、CD・クラス委員長及びクラスからの委員が連携して推進できるネットワークを年度早々に構築し、迅速かつ効率的に運営します。
3. これらの推進母体として、運営体制は学習事業実行委員会と各行事実行委員会を一元化し、昨年と同様に早期に立上げて運営します。
4. コーダイグループとしては受講生を主体として、校友会、大阪区民・府民カレッジと一体となった体制を構築します。
5. クラブ活動については受講生の自主性を尊重し「この指とまれ方式」を継続すると共に、受講生が活動しやすいように早期に立ち上げます。また、複数年度継続して取組むクラブは、年度早々に立上げることができるよういたします。

<校友会連絡部>

校友会に対する受講生の理解・関心を深める為、コーダイで積極的に応援し、クラブ等の共通項目で互いに親密な交流を実施して、校友会へのより確かな関心を促進すると共に、「終了後の活動の場」を更にわかり易く理解の上、入会に結びつけるよう改善いたします。

●総合企画部門

2部、1プロジェクトを担当する総合企画部門の2020年度の活動方針は以下の通りです。

<戦略部>

1. 「関西および首都圏シニアカレッジ交流会」について
第9回目の「関西シニア大学校交流会」が10月に兵庫県姫路市において開催されます。今年度も関西圏と首都圏との交流も併せて開催され、各団体の諸課題解決に

に向けた議論を展開します。

2. 「OKALS-V」（ボランティアに支えられた高度学習システム）の浸透についてコーダイの独自の学習システムの基本的な考え方の理解と運営手法をまとめ、校内外への広報・周知活動を展開します。
3. 「コーダイグループ構想」の検討
コーダイグループの財務基盤や人的な充実を図りながら、コーダイを取り巻く区民、府民カレッジ・校友会・同窓会を含めたグループ化の検討を引き続き実施します。
4. 「大阪府及び阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」への参加
「阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット」は大阪府と大学・研究機関（22 団体）が連携し、毎年 11 月「公開講座」を実施しています。この団体に参加し、情報交流を図ります。

<教科研究部>

1. “よく学びたい、楽しく学びたいという受講生のニーズ”にこたえるよう、先駆的カリキュラムの追求と魅力的な講師の発掘を積極的に実施してまいります。そのために校外で開催される公開講座や種々の発表会等に参加をします。
2. 分野別分科会を主催し講座の課題等の把握に努め、それを踏まえて活発で建設的な講座改革委員会の運営を行います。
3. 「提案制度」を通じて受講生や講師からの新規講座や公開講座等の提案を受け、講座改革委員会で審議します。
4. 国の施策である働き方改革により高齢者の就労が増加する傾向があり、1 年間の学び方の変化が出てきています。そのような状況への対応した学習システムの構築として“短期講座の導入”について検討をします。
5. コーダイアンケートについて調査内容の見直しや検討を行い例年通り実施します。コーダイの運営の為の資料として活用します。

<S プロジェクト>

理事長の方針である特命事項サテライト構想の実現に向けて、各方面からの情報の収集に努めます。

●事業部門

2020 年度より従来の事業部、BSC（ブライツシニアセンター）、事業開発（S プロの一部）の 3 部門を統合し、新事業部としてスタートを切ります。

これまで各部で積み上げてきた活動を基本にしながら、新たな統合による力の結集を十分に活かした事業部の業務の新展開を同時に目指してまいります。

<事業企画>

養父市との連携及び東日本復興支援においては、今後とも積極的に活動を進めていきますが「学習」を通しての交流促進に向けた具体的な方法の策定が今後の大きな課題です。例えば、養父市との連携事業において受講生の皆様の校外学習増加また、南三陸町の住民の方々との話し合いの場で、学習という言葉が生きがいを見い出す

端緒にならないかなどです。

音楽会等のイベント開催に当たってはコーダイグループ、受講生が一体となった企画立案・運営支援等ができないかを考えます。

さらに、私たちの身近な問題であります「救急救命処置」や「特殊詐欺対策」について、消防・警察の協力を得ながら受講生の皆様の危機管理に役立てて頂けるよう企画いたします。

マラソンボランティアは毎年多くの受講生に参加して頂いており、今年度も活動を続けます。

<ブライトシニアセンター (BSC) >

SA 養成講座終了生の方を対象にしたシルバーアドバイザー大阪府知事認定取得業務を引き続き遂行します。

コーダイとしての社会参加活動の一環として、これから活動されようとするグループに対し、DDS（同期同窓会）制度の紹介を通して支援していきます。

ただ、より多くのグループに参加してもらう為の方策の検討が急務であると考えております。

さらに、長年社会貢献活動をされている方を対象に「KOUDAI AWARD」の募集、顕彰を行います。

定着しつつありますボランティアバスツアーにおいては、訪問・見学する団体の分野等を広げることにより、受講生の方々に一層興味を持ってもらう努力が必要だと認識しております。

年度末の「終了後の活動の場」における校友会の活動説明と多くの受講生の入会促進も課題であります。

<事業開発>

事業開発はコーダイの柱の一つである社会貢献活動を事業面や資金面から側面的に支える活動を展開しています。

具体的な事業活動においては受講生のニーズに沿った形で開発を行い、催し面からも収益面からも満足を得ることが重要です。

昨年7月から開始し、夏の特別講座「アンチエイジングボイストレーニング」「英会話特別講座」冬の「クリスマスコンサート」「水・お茶販売」「語学ガイド募集」などに取り組み、延べ400人以上の参加を得、いずれも満員御礼となりました。

この取り組みを通じ、費用的にも一定の貢献を行うことができました。また、就労支援団体からの感謝状も寄せられています。

これらの教訓をもとに、今年は「みんなで歌おう」の取り組みをはじめ、ビジネスによる社会貢献の一層の広がりに向けて、ものづくりなど大型の開発にも力を注いでいきたいと思っております。

●子ども事業部

1. 「法円坂子供プラザ」「科学とモノ作り体験型教室」は2クラス80人で年間6回開催します。
2. 「第5回大阪科学フェスティバル」は天王寺区民センターで8月に1,500人規模で開催します。
3. 「パソコンお絵かき教室」は近隣幼稚園、小学校を中心に8回以上開催します。
4. 周辺各地区での科学実験講座の開催を広めていきます。

●情報管理部門

<教務事務部>

1. クラスディレクターの交通費と講師の謝金管理システムの円滑な運営に努めます。
2. 受講生台帳の集計管理と出席簿の学期単位のデータベース化、並びに修了証書と皆勤証書の発行を行います。

<システム部>

1. 募集データの集計システムを通して新受講生へ合格通知の発送、入金管理にて受講生を決定後、入学案内など発送し、受講生名簿、名札など入学準備の体制づくりを行います。
2. 受講生、講師、スタッフのデータベース化して個人情報の管理運営に努めます。

<ホームページ部>

1. 動画活用など内容の充実とビジュアル化、告知・報告のスピードアップに努めます。
2. 募集情報、イベント情報をリアルタイムで更新します。
3. クラスでのブログを立ち上げコーダイHPにリンクを推進します。
4. メールマガジンを毎月発信して1,000人以上の読者登録をめざします。
5. HPでの募集要項、応募状況をリアルタイムに掲載発信し、HPから受講申込が簡易になるように更に検討し、新規受講希望者への告知を図ります。

<コーダイネットワークPJ>

コーダイ内外においてインフォメーションが迅速・正確に流れるようにし、ネットを駆使した研修会・会議ができるように体制を整備していきます。

●広報部・ファンド部

<広報誌>

広報誌を通して学校運営方針、各イベント、クラスや受講生の活動状況など、多くの情報提供を伝え、関係機関、受講生などと情報の共有化を図ります。

- ・年3回(7, 11, 1月)、基本ページ数(16ページ)発行
- ・クラス紹介、社会への参加活動、ボランティア活動など活動の掲載推進
- ・広報誌作成委員の育成

<パブリシティ>

昨年に引き続き積極的にマスメディアとの協力体制を強化し、受講生の協力を要請してコーダイの知名度アップに努めます。

他部門に積極的に働きかけを行い、プレスリリースの情報発信力の強化及び配信数アップに努めます。

<企業対応>

今年度も引き続き企業を対象に広報・募集活動を継続していきます。

「れいんぼー」「募集要領」等の裏面広告を各社に要請し、協賛広告の獲得に傾注いたします。

<ファンド部>

今年は正会員の拡大を軸に、賛助個人会員の入会を促進し、賛助団体会員の勧誘に動きます。また、各種助成金についても積極的に情報収集に努め、その獲得に向け動きます。

●総務部門

2020年度は講座67科目を8会場(教育会館、福社会館、森之宮、住之江公園、大阪教育大学、堂島ビルディング、なにわのみやホテル、サロン・ドゥ・アヴェンヌ)にて、より良い受講環境の改善計画を立てたところではありますが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、急遽の見直しとなり皆様には大変ご迷惑をお掛けすることとなりました。

見直しに当たっては「密閉・密集・密接」の3密の解消を念頭に置いて、教室を選定したことから年間を通して同じ教室等を使用できないクラスもありますがご理解願います。授業開始時には安全を最優先に考え

1. 毎朝、体温を測り、発熱(体温が37.5度前後)・咳痰など症状のある人は登校を止めていただく。(各クラスに非接触型体温計を準備)
2. 換気の励行をする。可能であれば2方向窓等を同時に開け換気する。
3. 咳エチケットのためマスクを装着する。(手作りマスク、リーフレット配布済み)
4. 各クラスに消毒液(商品名iPOSH)次亜塩素酸水を準備。

等の準備はしておりますが、更なる新型コロナウイルスの集団発生防止にご協力願います。

一方、南海トラフなど大阪でも地震の危険性が危惧されておりますので、防災面での対策についても引き続き検討いたします。また、盗難事故を教訓に更なる保安対策を講じます。

<経理部>

受講生の増加により経理処理の件数も益々増えてます。

より精度の高い経理処理と事務管理に努めて参ります。

<事務局>

- ・受講環境の改善の為、新たな拠点の検討を行い3月時点では8拠点(教育会館、福社会館、森之宮ホール、住之江公園、大阪教育大学、堂島ビルディング、なにわのみやホテル、サロン・ドゥ・アヴェンヌ)での授業開始を受講生の方々にご連絡しておりました。

その後、新型コロナウイルス感染状況が深刻さを増し対策の為、開講を4月から9月に変更すると共に3密解消の為、従来の三人掛けの教室を全て二人掛けとするよう教室の見直しを行いました。その結果6拠点（教育会館、福社会館、住之江公園、大阪教育大学、堂島ビルディング、なにわのみやホテル）で授業を行う事になりました。

●募集委員会

活動内容の全般的な見直しを行い、効率的且つ機動的な募集活動を行ないたいと考えています。

人生100年時代をどう生きるのかと問われています。働き手の不足により、70歳まで働くシニアが増えていく時代に入り、新規受講生の獲得が難しい事が予想されます。そのための方策として、短期でも学びたいというシニアのニーズに対応した講座等について、講座改革委員会で検討された内容等2021年度受講生募集計画に反映をしたいと考えています。

更に、広報部門やコーダイグループの大阪区民・府民カレッジ、校友会等と連携しながら新規受講生獲得に注力したいと考えています。

以下に重点実施事項を列記します。

1. 募集案内は28頁冊子の1種類とします。
受講生、その知人・友人用及び校友会・同窓会へ配布します。大阪府内各市町村及び大阪市区役所、堺市区役所等の公共施設等へ配架をします。
2. 府政だより、大阪市・堺市区民だより、各市市政だより等へ受講生募集案内の広報依頼をし、コーダイの知名度を上げることで新規受講生の獲得を図ります。校友会、各同窓会等の組織を通じてPRをしていきます。
3. 2017年からコーダイはHPからの応募申込みの受付を行っています。
昨年度は約935名で受講生数の32.5%になってきております。応募者にとっても在宅で申込みが簡単にでき大変便利であり、今後ともHPでの案内情報の内容を充実させ、新規受講生増加を図ります。
4. オープンキャンパス及び講座説明会は新人獲得の方法として、極めて重要な活動と考えています。昨年度より初めて行いました語学関係のオープンキャンパスを実施します。講座説明会は大阪府内全域から参加していただけるように会場選定を慎重に行い、多くの参加者を集めたいと考えています。

●コーダイ・なにわの宮会

1. コーダイなにわの宮会は第3次プロジェクトに入り、新たにスタートします。
2. 過去2年間で全科を訪問した「理事長と語ろう、OKALS-Vってなに」ですがOKALS-Vは知られてきたとはいえ、まだまだ認知度が低い状態です。
更に、認知度を上げ理解を得るため本年度も実施予定です。
3. 本年度も引き続き「れいんぼー」の川柳広場を受講生に開放して、多くの人の応募・参加をアピールしていきたいと思えます。

4. 受講生歓迎会を開催し、科を超えた受講生の交流の場になって欲しいと思います。
5. コーダイの一大イベントにおいて、被災地支援の一環として物産展を開催したいと思います。

●大阪万博プロジェクト委員会

博覧会協会の動きとして、昨年末にロゴマークの応募を締め切り現在審査中また、BIEへの開催の正式な登録申請書を提出し、本年秋頃までに会場の基本計画をとりまとめる予定である。

東京五輪終了後、種々の動きが始まると考えられる。

当面、委員会の活動としては博覧会協会の動きを注視していきたいと考えている。

●NPO法人大阪区民・大阪府民カレッジ

1. 2020年度大阪区民カレッジ（以下OKCという）は新たに7校、受講生285名、大阪府民カレッジ（以下OFCという）は新たに「高槻・北摂校」を開講し計10校、受講生405名を受け入れ、地域密着カレッジは合計17校：690名へと増加しています。
2. 地域カレッジの設立の要望があります。関係者と設立可能かを考慮しながら支援してまいります。
3. OFCは淀川以北を北部統括、淀川・大和川間を東部統括、大和川以南を南部統括してエリアに密着した運営を行います。南部は堺東に連絡事務所を設け準備しています。
4. OFCは開校が相次ぎ、費用先行型となっていますが、経費節減に努め収支の改善を図ります。